

創

—第 57 回—

思いやりとコロナ教育

時節柄、毎回コロナに関する文章になってしまいます。第三波と呼ばれる感染拡大が別府で起きています。心配なのは感染経路が特定できない感染者が増えていくこと。そして家庭内での感染が広がっていること。

感染経路不明ということ、無症状の感染者が増え、知らず知らずのうちに大切な人に感染させている、つまり市中感染が広がっているということ。今やすぐ隣にコロナがあるという認識を持って行動するしかありません。そして家庭内で感染しないよう一度話をする機会を設けていただければと思います。もう一つ心配なことは、感染した人たちへの偏見と差別です。特に学校や地域、職場に復帰する場合の周囲の対応です。別府市民の中にはその



別府市長
長野 恭紘

様ないわれのない偏見や差別をする人はいないと信じますが、それは私たちが言い続けていかなければいけません。特に子供たちには学校や地域で『コロナ教育』をしっかりする必要があると感じています。

誰にでも感染の可能性がありますが。誰も感染したくならないものではありません。相手の立場を思いやり、温かく元の生活に戻るよう皆でサポートする。別府市民の皆さんには元々そんな優しさがあると信じています。

もう少しキツイ時期が続くと思いますが、対策の先頭に立って私も努力します。



フォトべっぷ



つなぐエールの灯—東京2020オリンピック聖火リレーの聖火が県内で巡回展示され、別府市では12月5日にべっぷアリーナで公開されました。来場者は、記念撮影などをして、開催に向けた思いを馳せました。



考える力の鍛え方—青少年の健全育成の一環で、立命館アジア太平洋大学の出口学長による講演会が市役所で行われました。参加した市内の中高校生たちは、これからの社会を生き抜くためにどんな力を高めるべきかなどのお話を聞きました。



先端技術×農業—東山幼小中学校で、先端技術を活用した別府らしく農業体験会が行われました。参加した農業関係者たちは、アシストスーツを着用した荷物の運搬、ドローンを使った農薬散布、直進アシスト付きトラクターなどの実演を受けました。



鬼の別府 VS 仏の白杵—互いの観光振興を目的に白杵市とタッグを組み、両者のおもてなしを競い合うプロジェクトが始まりました。別府の鬼割と白杵のふぐ割の販売数を競いながら、コロナ禍でも枯れない熱い想いを発信していきます。